

和気町議会だより

# 和気議会 NAVI

和気町議会  
第79号  
令和7年  
12月定例会

② 視察報告 総務文教常任委員会・厚生産業常任委員会

⑥ 12月定例会より ⑧ 質疑と答弁 ⑨ 委員長報告 ⑩ 一般質問



# 視察 報告

## 総務文教常任委員会

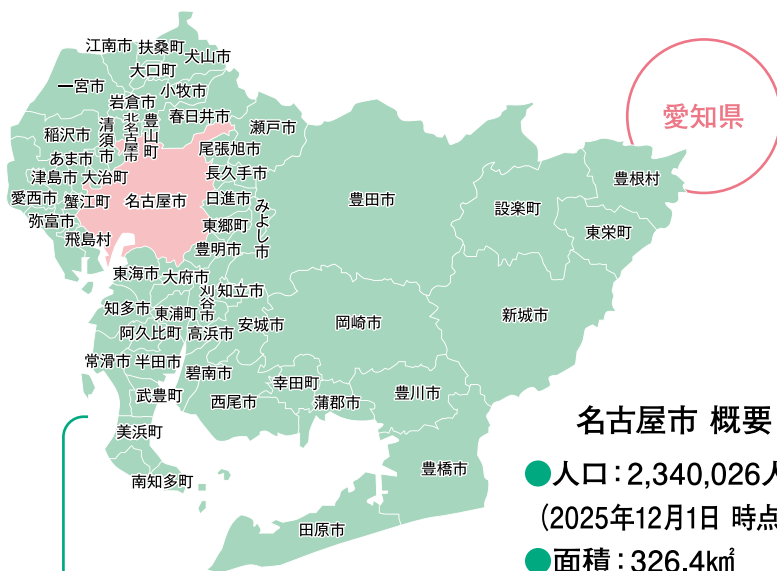
令和7年10月30日～31日  
愛知県名古屋市・  
岐阜県恵那市

出席した委員会  
メンバー

居樹 豊  
山野 英里  
西中 純一  
從野 勝

教育、移住推進において先進的な愛知県、岐阜県の  
2つの市へ調査研究に行ってきました。

今回の調査研究のテーマは「先進的な学校園づくり」と「移住支援の取り組み」を選びました。両市の協力を  
得ながら、学び考える機会となりました。



### 名古屋市 概要

- 人口：2,340,026人  
(2025年12月1日 時点)
- 面積：326.4km<sup>2</sup>

愛知県の県庁所在地。「日本3大都市」のひとつとして、利便性、産業力、独自の文化で、国内外から多くの人々を惹きつけている都市。名古屋市の教育は「ナゴヤ学びのコンパス」という基本方針に基づき「こども中心の学び」への転換を重視している。こども一人ひとりの「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現を目指している。



国指定重要文化財の名古屋市議場



名古屋市での研修

### 視察・調査内容

#### 名古屋市

#### イエナプラン教育※の 導入校での学び方

名古屋市では2019年度から「こども中心の学び」を進める学校園づくりを推進している。全ての教職員が対話を重ねながら、それぞれの学校園のこどもたちの実態に合った教育を実践している。こどもが自分で考えて学習計画を立てている。自分に合ったペースや学習方法で学習時間(週5時間から10時間)を設け、こどもが主体的な学習を進めている。

授業では、こどもたちがお互いに顔を見合わせながら円になり、それぞれの考えを共有し、一人ひとりが尊重される大切な学びが育まれている。



ナゴヤ学びのコンパス

本町においても教育の町として、先進事例を参考にして「こどもたちが学びを通じて、自分らしく幸せに生きていく」ということが出来るような、まちづくりを目指してほしい。今後も研究の必要性があると感じている。

※ドイツで始まりオランダで広がった、一人ひとりを尊重しながら、自立と共生を学ぶオープンモデルの教育

## 恵那市 概要

●人口：45,474人（2025年12月1日 時点）

●面積：504.2km<sup>2</sup>

岐阜県南東部に位置し、豊かな自然と歴史、文化が融合した地域。

2004年に周辺町村と合併し、特産品「細寒天」は日本一の生産量を誇る。

2024年に続き2025年も宝島社が発表する「住みたい田舎ベストランキング」で全国1位（人口3万人以上5万人未満のまち・総合部門および子育て世代部門）を獲得しており、手厚い移住支援を行っている。



恵那市での研修



バリアフリーの恵那市議場



住みたい田舎ベストランキング  
2年連続で1位獲得

## 視察・調査内容

### 恵那市

## 移住支援の充実

恵那市は、「住みたい田舎ベストランキング」総合部門1位で本町と同じように自然豊かな環境に恵まれており、名古屋まで1時間以内の通勤圏。

移住奨励金や空き家バンク活用支援金など、移住支援事業として補助金を手厚くしており、経済的支援が充実している。

また、市の特徴として地域おこし協力隊を地域の希望に応じて配置し、現在4名の隊員が各地域で活動している。

他にも移住コーディネーターや集落支援員などの体制が整備されている。また、ICT教育にも取り組んでおり移住

推進につながっている。

今後の課題としては、これまで移住者にとって最も役に立った支援策や移住先に選んだ理由など「住んでみたい」と感じてもらえる魅力あるまちづくりが重要であると改めて感じている。

## ✓ 視察を通じて

教育改革や移住支援の充実を行う上で、どんな学びが大切なのか、どんな町にしたいのかを具体的に方向を示していくことが重要だ。本町においても、この町で「学んでみたい」「住んでみたい」と思えるような魅力あるまちづくりを考え、ていく必要がある。

令和7年11月13日～14日  
福島県  
福島市・大熊町・双葉町

## 出席した委員会 メンバー

山本 稔  
山田 浩子  
広瀬 正男  
山本 泰正  
神崎 良一  
我澤 隆司

好適環境水を利用した完全陸上養殖と東日本大震災及び福島第一原子力発電所事故からの復興まちづくりをテーマに、福島県福島市の企業、自治体へ調査研究に行ってきました。

企業、自治体のご協力により、苦勞した点や貴重な体験をお聞きすることができました。

## 視察・調査内容

### 株式会社いちい

### 好適環境水を利用した 完全陸上養殖

岡山理科大学、NTT東日本、株式会社いちいの共同研究により、好適環境水を利用した「紅鮭」の完全陸上養殖を事業化している。震災後、風評被害により消費が落ち込んでいたが、お客様に安全で美味しいお魚を提供したいということが原点であった。

現在、浪江町で本格的な施設を準備している。和気町においても、

岡山理科大学の協力をいただき、養殖施設を誘致したい構想があるが、実現に向けて綿密な計画をたてる必要があると感じた。

## 株式会社いちい 概要

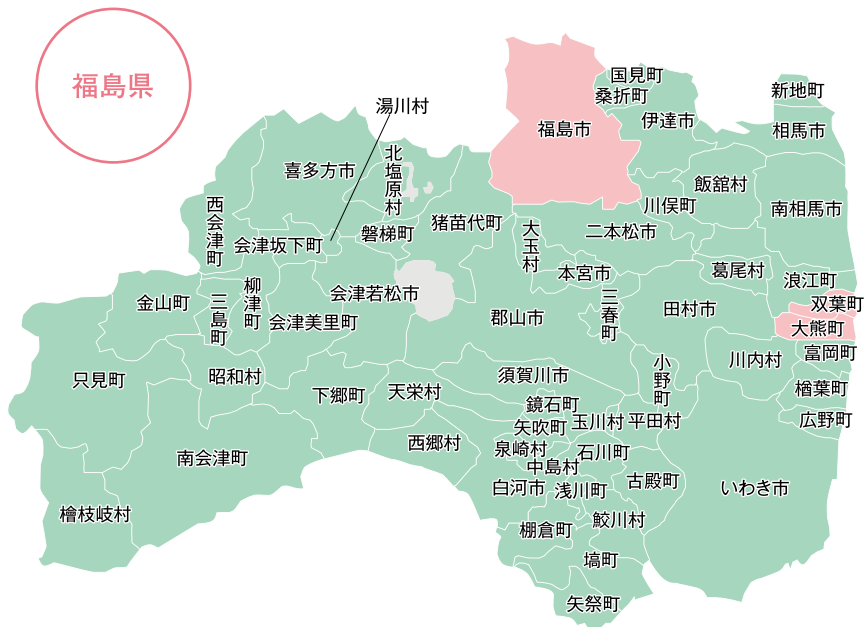
【創業】明治25年（1892年）

【資本金】4600万円

【年商】181億円

## 【事業内容】

海産物商として創業以来、福島県北地区をメインに食料品を中心としたスーパーマーケット事業の他、ペットショップ事業、ファーストフード事業など多くのチェーンを展開している。



水槽の前に担当者から説明を受ける



株式会社いちいでの研修

## 視察・調査内容

### 大熊町

## 東日本大震災及び 福島第一原子力 発電所事故からの 復興にむけた まちづくり

2011年3月11日の東日本

大震災、福島第一原子力発電所事故により、多大な被害を受けた。翌日、全町民が町外避難を開始。避難所は30カ所、行政拠点は3カ所設置された。議会はバスの中や学校で行われ、正常に戻ったのは半年後であった。今なお帰還困難区域が町の半分を占めており、帰還者は当時の1割程度（1050人）である。県内外への避難者は約8千人であるが、現在も復興に向けて鋭意努力されている。災害に対する日頃からの備えや訓練の大切さ、有事の際の議会の在り方を考えさせられた。

## 大熊町の概要

【人口】9850人  
（2025年9月末時点）  
【面積】78.71km<sup>2</sup>  
大熊町は、2011年3月に発生した東日本大震災および原子力災害により、全町避難を経験したが、震災を経てなお未来に向けた様々な取り組みを進めている。

## 視察・調査内容

### 東日本大震災・原子力災害伝承館

伝承館が建てられた場所は、高さ約4mまで浸水した。その高さに驚き、自然の驚異の前での人間の無力さを感じた。原子力発電所の建設は、多くの雇用、電力、経済効果を生んだことを称賛していた。しかし、原発事故により、あまりにも大きすぎる被害を出してしまった。まだ復興半ばである現状を忘れてはならない。

## 施設の概要

2011年3月11日に発生した東日本大震災と東京電力福島第一原発事故に伴う原子力災害。未曾有の複合災害を経験し、復興の途を歩んできた福島の記録と記憶を防災・減災の教訓として未来へつないでゆく施設である。（パンフレットから引用）

## ✓視察を通じて

好適環境水を活用した陸上養殖施設は、地域の活性化のためには非常にいい事業だと感じた。課題は、ランニングコストをいかに抑えていくことができるかが、カギとなると思われる。

震災後のまちづくりについては、全町民が町外に避難するといった、想定していない事態に町長をはじめ議会の対応も苦労を重ねられたと感じた。復興はまだ道半ばであり、一日も早い復興を祈るばかりである。



大熊町での研修



津波の高さは約4mに達した



12月議会の  
動画一覧は  
こちら

# 12月

＼こんなことが決まりました／

## 議会定例会

令和7年12月2日～12日

### 補正予算

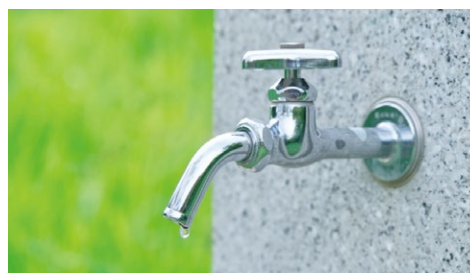
#### ●子育て応援特別手当給付事業 (国庫事業)

物価高の影響が長期化する中、子育て世帯を支援し子どもたちの健やかな生活を応援するもので、児童1人あたり一律2万円給付する。



#### ●生活者支援対策事業 (国庫事業)

物価高の影響が長期化する中、生活者の支援を行えるよう水道料金の基本料金を減免するもので、12月、1月分の基本料金を減免する。



### ◎請願・陳情

| 請願・陳情 | 内 容                        | 提出者                       | 審査結果          |
|-------|----------------------------|---------------------------|---------------|
| 請 願   | 政府に所得補償(直接支払い)制度の実現を求める請願書 | 岡山県南農民運動連合会<br>代表世話人 石原 博 | 全会一致で<br>趣旨採択 |
| 請 願   | 「ジェノサイド条約」の批准を日本政府に求める請願書  | 宗景 なつ子 他 12 名             | 全会一致で<br>採択   |

## 一部事務組合議会

和気町・赤磐市の一部の事務を共同で行うため、一部事務組合を設置しています。一部事務組合の議会は、構成する和気町・赤磐市の議会から選出された議員が、予算や決算等について審議します。

(令和7年10月28日開催)

| 組合名               | 審議された内容                          |
|-------------------|----------------------------------|
| 和気・赤磐<br>環境衛生施設組合 | ①令和6年度決算が認定されました。                |
|                   | ②決算認定に伴い、繰越金が確定したため補正予算を行いました。   |
|                   | ③令和8年度から組合議会定例会が3回から2回に変更になりました。 |
|                   | ④汚物の収集に要する経費の内容を削除しました。          |
| 和気<br>老人ホーム組合     | ①令和6年度決算が認定されました。                |
|                   | ②決算認定に伴い、繰越金が確定したため補正予算を行いました。   |
|                   | ③令和8年度から組合議会定例会が3回から2回に変更になりました。 |

(令和7年12月23日開催)

| 組合名               | 審議された内容                                                  |
|-------------------|----------------------------------------------------------|
| 和気・赤磐<br>環境衛生施設組合 | 岡山県市町村総合事務組合に加入する地方公共団体数が減少するため、岡山県市町村総合事務組合規約の変更を行いました。 |
| 和気<br>老人ホーム組合     | 岡山県市町村総合事務組合に加入する地方公共団体数が減少するため、岡山県市町村総合事務組合規約の変更を行いました。 |

## 議会広報に関する視察の受け入れを行いました

令和7年10月7日 福岡県広川町議会 広報調査特別委員会様  
令和7年10月21日 広島県府中町議会 議会報特別委員会様

「議会広報」の、全体的な構成、表紙写真の公募、紙面づくりの工夫などの取り組みについて質疑があり、活発な意見交換が行われました。



広川町議会



府中町議会

# 質疑と答弁

本会議において次のような質疑と答弁がありました。



和気町職員の給与に関する  
条例等の一部を改正する  
条例について

7級制を導入しては

山本泰正議員

Q 管理職がやる気や責任を持って  
頑張っていけるために、部長の給料  
表として7級制を採用しないのか。

A 則枝 総務部長

管理職手当の中で、課長、部長につ  
いて差を設けている。見直しというのも  
難しく、退職年齢の引き上げも現在  
行われているので、今後の検討課題と  
したい。

給与改定による町財政への  
影響は

西中純一議員

Q 給与の改定によって、特別職も  
含めて和気町の負担がどれだけ増  
えるか。

A 則枝 総務部長

今回の給与改定部分により約50  
00万円の増額を見込んでいる。



ご自宅で、外出先で、議会の様子がわかります！

**和気町議会**  **YouTube**  
チャンネル登録お願いします！

＼ ライブ中継も！ ／ ＼ 録画も！ ／ ＼ 24時間いつでも！ ／

動画投稿サイト  
**YouTube**  
(ユーチューブ)

<https://www.youtube.com/>

和気町 議会

Q 検索

**スマートフォン・タブレットの方**  
(アンドロイド・iPhone/iPad 共通)

右のQRコードを読み取ってください。  
和気町議会のYouTubeチャンネルに移動します。



＼ とっても簡単♪ ／



質疑と答弁の動画は  
こちらから！



# 委員長報告

和気町議会には、2つの常任委員会と  
1つの特別委員会があり、  
付託された議案について、特に詳しく審議します。



## 総務文教常任委員会

委員長 居樹 豊

本委員会に付託されました議案11件について、慎重に審査した結果、すべて全会一致で原案可決されました。

なお、審査の過程において、次のような質疑がありました。

議案第90号和気町過疎地域持続的発展市町村計画の変更について、消防施設関係で東備消防組合の救急車2台の配置体制はどうなるのかとの質疑に対して、正副管理者会議において協議を進めているとの答弁がありました。

議案第93号和気町乳児等通園支援事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の制定について、具体的な事業内容はとの質疑に対して、令和8年4月から給付化される事業で、民間事業者等が行うことができるとの答弁がありました。

議案第96号和気町職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例について、人口減少や町税の増加が見込めない状況の中で、人事院勧告により人件費が増加しているが、今後の対応についての質疑に対して、和気

町においては人事院勧告に基づいて給与改定を行うとの答弁がありました。

議案第102号令和7年度和気町一般会計補正予算(第4号)について、総務費の施設備品購入費の内容はとの質疑に対して、職員の熱中症対策で勤務中の安全を確保するために、空調服を54セット購入するものだととの答弁がありました。

また、保育対策総合支援事業補助金が減額になっているが、事業への支障はないのかとの質疑に対して、若手保育士の保育時の巡回指導を行う事業で、効率的に巡回しているので支障はないとの答弁がありました。

また、岡山県防災まちづくり総合支援事業補助金の事業内容はとの質疑に対して、防災士の資格取得に係る補助金で、今年度5名程度の見込みであるとの答弁がありました。

請願第6号「ジェノサイド条約」の批准を日本政府に求める請願書については、全会一致で採択となりました。

## 厚生産業常任委員会

委員長 山本 稔

本委員会に付託されました議案は10件、請願1件であります。議案についてはすべて全会一致で可決され、次のような質疑がありました。議案第102号令和7年度和気町一般会計補正予算(第4号)で和気老人ホームの負担金について入居者がどの程度減少しているのか、問題点は何かとの質疑に、定員30名に対し入居者は20名程度で入所要件に合致している方が少なくなっている。また経費節減に努めているが人件費の増加などにより経費が

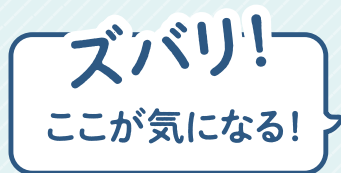
増加しているとの答弁がありました。また議案第103号令和7年度国民健康保険特別会計補正予算(第3号)において、過年度過誤納還付金の内容について質疑があり、国民健康保険から社会保険への切り替え手続きができていなかった方に3年分遡り、返還するものであるとの答弁がありました。請願第5号政府に所得補償(直接支払い)制度の実現を求める請願書については賛成多数で趣旨採択となりました。

## 和気鵜飼谷温泉事業特別委員会

委員長 西中 純一

本委員会に付託されました議案第106号令和7年度和気町和気鵜飼谷温泉事業特別会計補正予算(第3号)について審査した結果、特に質疑もなく全会一致で原案可決されました。





# 一般質問

## 〈一般質問とは〉

議員が和気町の事務の執行状況や将来に対する考え方などの報告や説明を執行機関(町)に求め、適切な町政運営を進めているかをチェックするものです。

一問一答方式で行われ、質問・答弁を合わせて40分間です。

議会だよりでは、議員本人が執筆(要約)したものを掲載しています。

12月議会定例会では7人の議員が質問しました。



PAGE  
11

### 居樹 豊議員

- 観光施設の整備を
- 高齢者福祉の充実を

PAGE  
12

### 山野 英里議員

- 水質に安心感を
- こどもが安心できる居場所を増やせないか

PAGE  
13

### 我澤 隆司議員

- 民間病院との医療連携をどう強化するか
- 町民への情報発信体制の不十分さに対する現状認識と改善方針をどう考えるか

PAGE  
14

### 神崎 良一議員

- 好適環境水の導入は
- 『しらせあい』は
- 物価高騰対策は
- 和気鵜飼谷温泉の薬草園への太陽光発電事業は

PAGE  
15

### 山田 浩子議員

- ふるさとまつりでの防災コーナーは
- 和気町文化祭の今後の展望は
- 重点支援地方交付金をどう使うのか

PAGE  
16

### 山本 泰正議員

- 産業振興施設の町民への周知は万全か
- 町政懇談会の成果と反省は

PAGE  
17

### 西中 純一議員

- 藤野地区の公害防止協定要望は
- 草刈りなどの活動中の事故対応は
- 町営住宅の管理は



## 観光施設の整備を



## 新たな施設整備を 検討する

動画はこちら



居樹 豊  
議員

**Q** 人口減少の下での楽しい本町の魅力づくりには、観光振興によるにぎわい創出が最も効果的ではないかと思っている。観光施策についての評価、検証が必要であるが、その前に3つの未整備の施設についての考えを伺いたい。

**A** 岡 産業振興課長

① わけまるパークについては、大型複合遊具が整備され、ローラースライダーなどについては、経年劣化が進んでおり、できるだけ早期に整備したいと考えている。

② 和気アルプス登山道の周辺整備については、登山口付近への簡易な公衆トイレの設置、登山中のトイレブースなど検討を進めており、来年度以降、設計などの業務を進めていきたい。

**A** 西本 産業建設部長

③ 和気駅構内の有効活用については、現在はエレベーターの設置に向けJRと協議を進めており、この事業と合わせる形で和気駅待合室の整備を計画したい。具体的には、来年度待合室の設計委託を検討している。



和気駅構内フリースペース

## 高齢者福祉の充実を

**Q** 人生100年時代を迎え、これからの高齢者施策に対する課題について考えを伺いたい。

**A** 寺尾 介護福祉課長

① フレイル予防について、高齢者が住み慣れた地域で、自分らしく活動的な生活を送る環境を整備することは喫緊の課題であると認識している。本町は以前から地域包括支援センターや健康増進担当において介護予防や高齢者の健康増進に資する取り組みを行っている。また、令和6年度からフレイル予防のための講座を実施している。来年度はフレイル予防を推進することで、医療費や介護給付費の抑制にもつなげられたらと考えている。

② 本町には、独居の高齢者が多数おられ増加傾向にある。高齢者の生活状況については、区長、民生委員、ボランティアグループなどから情報提供をいただき、地域包括支援センターにおいても80歳以上のひとり暮らし世帯を対象に、専門職員が自宅を訪問し、安否確認や健康状況などを把握している状況である。また、地域で支え合いネット推進事業として協定を締結し、体制整備を図っている。

③ 移動支援（タクシー利用制度）の利用については、特に利用者から意見もなく、制度の拡充は考えていない。

**A** 太田 町長

本町は高齢化率が40%を超えている状況であり、住み慣れた地域で健康で安心して暮らせるよう努めていきたい。



フレイル予防教室



## 水質に安心感を



## 監視体制を継続し、必要な情報は公表する

動画はこちら



山野英里 議員



**Q** JOHNNAN(株)の水質、土壌汚染は、地域にとっては大きな問題である。水質調査などの結果、経緯についての可視化や説明会はできないのか。

**A** 松田 民生福祉部長

町は、企業に対して説明の場を設けるように強く働きかけを行っている。

今後は、地下水の汲み上げ、浄化装置の試験稼働と、汲み上げた地下水の浄化の状況分析を来年1月から実施する予定だ。部分的な情報だけを示すことは不安を招く恐れがある。県との協議を経て、企業の対策方針が固まった段階で、調査結果と併せて住民に知らせることが重要だ。

町が説明会の主体となり、住民に対して説明を行うことも検討する。

**Q** 条例改正など、今後の方針は。

**A** 松田 民生福祉部長

土地や土壌や地下水の汚染に関する調査規制の権限は、土壌汚染対策法や水質汚濁防止法に基づき、県が所管している。町が単独で企業に立入調査を行う権限がないので、主体的に関与できる仕組みを検討する。

町が一定の条件の下で、企業への立入調査の実施、対策方法や安全性に関する有識者からの意見聴取、必要に応じた企業への指導、要請などが行えることを念頭にした条例改正を進める。

**Q** 今回のことは、住民の生活や環境に影響することであり、大きな問題ではないか。

**A** 太田 町長

現在、一部の地下水では基準値を超えたものが出てきている。地下水の流れなどの調査が難しい。

水道水は安全であり、今後も監視体制は継続していく。必要な情報は公表して、町民の不安を取り除く。

## こどもが安心できる居場所を増やせないか

**Q** 様々な理由で学校に行けないこどもに対して、安心して学び、その努力が認められることが必要だ。

文部科学省が定めるICTなどを活用し、一定条件を満たすことで、出席日数として認める制度がある。この出席扱い制度を必要な人が活用できているのか。

**A** 嶋村 学校教育課長

自宅でのICTなどを活用した学習も出席扱いの可能性はある。

**Q** 中高生の居場所の確保も課題だ。

学校でも家庭でもない第3の居場所として、ユースセンターを設置している市町村もある。ユースは、若者という意味であり、主に中高生の居場所を目指している。

ENTER WAKEなどを活用して、こどもたちが安心して過ごせる場を提供できないか。

**A** 清水 まち経営課長

ENTER WAKEは商工会も関係している。

放課後や休日に中高生等が安心して過ごせるユーススペースとしての活用や学習支援、多世代交流、若者のキャリア形成などの活用も視野に入れながら、商工会と協議を重ねる。駅前活性化や、こどもの居場所づくりの双方に資する形で、活用方を整理していく。

**Q** こどもが安心して過ごせる居場所は、大人も安心して過ごせる場所だ。

学校内で行っている、こどもの居場所もある。こどもの居場所事業を町として助成できないか。

**A** 寺尾 介護福祉課長

こどもの居場所の確保や充実、孤立の防止と安心できる場所の提供、貧困対策、相談の運営機能の強化といった観点からも、子育て支援の推進と地域社会の活力維持に有効であり、対応すべき課題だ。現在は助成を行っていない。

様々な主体による様々な場所でのスポット開催時でも、利用可能な補助制度も考えていく。



朝ごはんを提供している、こどもの居場所



## 民間病院との医療連携を どう強化するか

A

圏域病院に  
依存のため、  
連携支援が必要

動画はこちら



我澤 隆司 議員



Q

- ① 民間病院への依存を踏まえ、今後の連携・支援をどう考えるか。
- ② 締結している協定の現状と意見交換などの運用実態は。
- ③ 町が把握している医療体制の課題と改善策は。

Q

病院は和気開谷高校、和気鵜飼谷温泉と同様、重要な社会インフラである。直接支援は難しくても、間接的な支援はできないか。

A 松田 民生福祉部長

直接支援は限られるが、災害時などの緊急体制について協力ができる体制づくりを進めたい。

A 則枝 総務部長

町営バスまちなか線を30分に1本とし、2つの総合病院へのアクセスは改善したと認識している。

Q 佐伯地域は、少人数で地域医療を支えている。学校統合問題と同様、

地域医療の議論も重要ではないか。

A 松田 民生福祉部長

町営の塩田診療所は週1回2時間の診療である。和気・赤磐両医師会と連携して、身近な診療機関による診療体制の構築を検討していきたい。



和気町の医療を支える民間病院

## 町民への情報発信体制の不十分さに対する 現状認識と改善方針をどう考えるか

Q

- ① 施策の周知が十分ではないとの声を複数聞くが、現状認識はどうか。
- ② しらせあいなどのデジタル情報が届きにくい層への対応策はあるか。
- ③ 町公式SNSやホームページなどの活用状況と分析は。
- ④ 公共空間を活用した情報発信の重要性の認識は。

A 則枝 総務部長

① まち経営課で情報発信を一元化し、まちの魅力発信や移住、定住促進につなげていく方針だ。

A 清水 まち経営課長

- ② しらせあい導入時に操作説明会や個別対応を行ったが、不慣れな方もおり、今後も関連部署と連携して対応したい。
- ③ ホームページは、令和5年度にリニューアルし、トップページは8万6000回閲覧されている。SNSは、フェイスブック、インスタグラム、X、LINEで情報発信している。
- ④ 公共空間での情報発信は大変重要であり、和気駅の待合スペースは整備計画にあわせ、観光部局とも連携して活用したい。

意見

町民への情報発信が不十分であれば、施策は伝わらない。究極的には、職員が町民一人ひとりと直接対話することが重要であり、それが相互理解を深め、町民と共にまちづくりを考える基盤になると考える。

A 清水 まち経営課長

Q 和気鵜飼谷温泉は30周年で現場は盛り上がりつつあったが、役場全体の盛り上がりを感じられなかった。広報のリーダーとしてどう考えるか。



公共空間は重要なメディアだ



## 好適環境水の導入は

A

養殖した魚を産業振興施設で販売も念頭に  
取り組んでいく

動画はこちら



神崎良二議員



### Q 産業振興施設は

- ① 産業振興施設の事業の現状は。
- ② 好適環境水の導入は。
- ③ 庁舎内でプロジェクトチームまたは実行委員会はいつ結成するのか。

### A 岡 産業振興課長

① 産業振興課だけでなく複数の部署が連携しながら、事業を進めていくこととし、実施設計及び用地取得に速やかな執行に努め、その後は造成工事、建築工事の順に着手する予定である。また、町民の声を幅広く取り入れていくという観点から、ワークショップや検討会の開催などについても検討を進めており、皆様からいただいた御意見を尊重しながら事業を進めたいと考えている。また、11月13日には地元多くの代表や関係者による地元検討会を開催した。検討会では、事業の早期実現や、地元や町民が交流できる場を、との意見をいただいている。今後は広報誌やホームページなどで情報発信をしていく。

### A 清水 まち経営課長

- ② 好適環境水を活用して養殖した魚を産業振興施設で販売したり、来場者に好適環境水による陸上養殖の様子を見てもらうことも念頭に、旧山田小学校跡地の活用について庁舎内で連携を図っている。

### A 太田 町長

岡山理科大学との調整が重要である。12月19日に訪問し、年明けにも理事長、学長含めた検討会を持つ予定である。

### A 岡 産業振興課長

- ③ 時期については今後また検討していく。

### A 太田 町長

実施設計に向けてのプロジェクトの準備をしている。業者を選定したら、いろいろなプロジェクトやワークショップも含めて組織づくりを行う。

## 物価高騰対策は

- ① 交付金の額、受領時期は。
- ② 和気町の対策の内容は。
- ③ 非課税世帯に対しての何か具体的な策はあるか。
- ④ おこめ券はどうするのか。

### A 海野 財政課長

- ① 和気町の交付金の額は1億7千万円程度で、来年5月の出納整理期間までの予定である。
- ② 水道料金の基本料金の減免を一期2か月分について実施する。また、中学校の給食費無償化事業に充当することも検討中である。
- ③ こども家庭庁が所管する物価高対応子育て応援手当は、児童1人当たり2万円を年内に1回目の支給する計画である。非課税世帯に特化した対応は難しいと考えている。
- ④ おこめ券以外で地域の活性化につながるような形での支援を検討中である。

## 『しらせあい』は

- ① パソコン使用の不具合の原因は何か、またその対策は。
- ② 不具合の回数と不具合にかかった経費は。

### A 海野 財政課長

- ① 原因はシステムサーバーに大きな負荷がかかることにより、正常に配信が行われないことと、タブレット端末側の通信状況に課題があり放送を受信できないことが判明した。この不具合への対応としてシステムサーバーの増強、タブレット端末及び屋外拡声子局の通信状況の見直し、改善を講じた。
- ② 不具合発生時は業者の来訪や遠隔操作で対応した。その際の経費は保守費用の中で対応した。

## 和気鵜飼谷温泉の薬草園への太陽光発電事業は

### Q ① 入札後の町内業者の採用状況は。

- ② 保守契約の内容は。
- ③ 地元企業の契約金額は。

### A 松田 民生福祉部長

- ① 地元企業は5社採用されている。
- ② 今回の施工業者から施工完了後、3年間の無償点検の提案を受けており現在検討中である。
- ③ 契約金額は把握していない。

### A 太田 町長

大きな事業契約を受けている茂山組と担当課で話し合いやお願いをしていく。保守点検業務3年間無償提案を受けているので、今後皆さんが納得いくように進めていく。



ふるさとまつりでの  
防災コーナーは



防災ブースの  
確保に努める

動画はこちら



山田 浩子  
議員



Q 昨年は防災コーナーで液状化体験やVR体験ができた。なぜ今年はなかったのか。防災士の方にも協力をお願いしてはどうか。

A 則枝 総務部長

今年はブースの確保が困難だった。来年以降、防災ブースの確保に努め、大人から子どもまで災害について学び、自ら体験できる企画が行えるように取り組む。防災士の方々が積極的に参画できる仕組みを作りたい。

Q 倉敷市では、誰もが気軽に楽しく参加できる防災の普及イベントが開催されている。町と連携協定を結んでいる企業や、子ども向けに防災についての学びを提供している団体などと協力して、防災イベントを開催できないか。

A 則枝 総務部長

防災に対する気持ちを高めていく取り組みが必要である。東備消防、気象台、中国電力、また防災士の方々にも協力していただき、前向きに取り組んでいきたい。

## 和気町文化祭の今後の展望は

Q 中央公民館の来場者が少なかった。サエスタではステージイベントもあるので集客が見込める。分散している文化祭をサエスタに集約してはどうか。

A 森元 社会教育課長

今年は新たにワークショップを導入した。多くの方が訪れたが、中央公民館の参加人数は少なかった。サエスタに集約するには様々な課題がある。まずは人が集まる文化祭を目指して、中央公民館においても魅力的な内容を取り入れていきたい。

Q 文化祭は皆さんの発表の場という貴重な場所。文化活動は大切に守っていかないといけない。新しい人を呼び込むために、教室も展示だけでなくワークショップも行っては。

A 森元 社会教育課長

今年も呼びかけたが申し込みがなかった。広報誌でもグループ活動の紹介はしているが、新しい参加者よりも高齢化が進んでいる。提言を十分考えながら引き続き検討していく。

A 徳永 教育長

文化祭は町民が集う貴重な機会である。充実したものになるよう教育委員会としても取り組んでいきたい。



和気町文化祭でのステージイベント

## 重点支援地方交付金をどう使うのか

Q 農家の方が多い和気町にはおこめ券はそぐわない。町内で利用できる商品券にすることはできないか。

A 海野 財政課長

食料品の物価高騰に対する支援についての特別加算が設けられている。おこめ券や食料品の現物支給は幅広いニーズに必ずしも合致しない可能性も考えられる。町内の店舗で利用できる商品券の配布は、町民のニーズに対応でき、町内の経済活性化にも十分つながると認識している。選択肢の一つとして検討を進めていきたい。





## 産業振興施設の 町民への周知は万全か



広報わけ・  
ホームページ等で  
情報発信したい

動画はこちら



山本 泰正 議員

**Q** 産業振興施設は、前・前町長の時代、山田小学校の廃校に伴い、佐伯地域の全区長から請願が提出され全会一致で採択された案件だ。

一部の町民や議会でも反対意見があり、中でも町行政に全く興味を持っていない町民が、議員の土地を買うための事業なのかと複数人からの声があった。

議員の所有する土地(約400㎡)は、地域の事情があって当時区長だった議員が無理やり購入させられた土地で、協力者だと地元では言われている。

また、事業費5億円も一人歩きしているが、補助金等の活用により町一般財源は約7千万円程度だと町民に周知もされたい。

時が過ぎ紆余曲折もあった中、本年9月定例会で用地購入費と設計委託料が予算化された今、本事業の必要性和今後の計画を町民に周知すべきではないか。

### A 岡 産業振興課長

未来予想図を基本に産業振興施設のみならず、地域資源を活用した内容を検討しており、事業の進捗に合わせ、広報わけやホームページなどを活用し情報発信したい。



## 町政懇談会の成果と反省は

**Q** 今回の懇談会、開会冒頭、司会者が、一問一答方式でとお願いしてスタートしたにもかかわらず、一部のグループから行政批判が続発した。中でも、農地転用に関する不祥事については冒頭町長が、状況報告し、お断りしたにもかかわらず旧小学校区ごとに開催している懇談会だが、他地域からの参加者が声を大にしての町政批判があった。また、オブザーバーで参加している議員まで批判するなど会の運営にも課題を残した。

ある会場では、激しい町長批判に参加者からいい加減にしろとの声も上がった。

私は、7会場すべてに参加したが、やらせなのか組織的に意図をもって批判したのか不信に感じた。

今回の成果と反省は。

### A 太田 町長

町長に就任以来、トップダウンではなく広く町民の意見を吸い上げるボトムアップ型の政治を心がけており、この町政懇談会は町民の皆さんから直接意見をいただける重要な機会と認識している。

今回の町政懇談会については、農地関係法令に関する不適切な事務処理について厳しい指摘をいただく結果となった。今後は、開催方法など検討し、地域の知恵と経験を生かし町民と行政が目標を共有した町民参加型の町政運営をしていきたい。

### A 則枝 総務部長

今回の懇談会では、1人の参加者が複数回にわたり行政の姿勢を正す旨の発言が繰り返され参加者から不満の声もあった。

会の進行責任者として意見交換の場を有意義なものにすべく進行管理が必要だったと反省している。

今後の在り方については、改めて検討したい。



## 藤野地区の 公害防止協定要望は

**Q** 吉備中央町のPFOS、PFOAの汚染源といわれた活性炭のフレコンバッグがTVで報道されたとき、備前市吉永町の会社のトラックが映っていた。そのトラックが、(株)和気倉庫(旧スーパーバッグ)に出入りしている。住民が心配し会社に要望書を提出したと聞いているが、どうなっているのか。

また、宿北には上水道の水源があり、若干のPFOS、PFOAの検出があったということだが問題はなののか。

### **A** 松田 民生福祉部長

藤野地区内の運送業者と宿北区ほか4区との間で公害防止協定の締結に向けた話をしている。運送業者は20年前に藤野地区に進出している。倉庫内には有害物質を含む活性炭はなくなりサイクル後の活性炭が少量あった。製造や洗浄工程をもつものでなく水質汚濁防止法に定める施設に該当しない事業である。

地元の皆様が、有害物質の流出や周辺環境への影響を心配されている。町としては双方の協議が円滑にすすむよう必要な助言や情報提供を行っている。

### **A** 柚本 上下水道課長

上水道の宿第1水源と宿第3水源がある。PFOS、PFOAについて、令和6年の給水栓の検査では1ヶあたり12ナノグラム検出している。令和7年3月の宿第3水源池の検査では8ナノグラム検出があったが、水道水の品質基準を下回っており水道水は安全である。



## 町として助言や 情報提供している

動画はこちら



西中 純一 議員



**Q** 町営住宅の空きが増えて  
いるがどうか。

### **A** 西本 産業建設部長

宮田、朝日、日笠、石生はほぼ空きはない。長楽は空きはあるが増えている。父井原、塩田については年々空きが増加傾向にある。空きが減らせるよう今後も定期的に募集等行っていく。

## 草刈りなどの活動中の事故対応は

**Q** 区の草刈りや町から委託を受けた町道の草刈りでの事故についての対応はどうなっているか。

### **A** 西本 産業建設部長

町道の草刈りについて原則、町と区で委託契約を結んで事故が起こった時の責任関係と保険による補償体制をあらかじめ明確にしておくことが重要である。町道の管理者は町であり安全確保については、最終的な責任を負う一方で作業を行う区にも受託者として安全配慮義務が生じる。受託契約書において安全管理や報告義務を明文化することで役割分担を整理している。また保険による補償体制として、助け合いのまちづくり活動推進サポート保険による補償体制を整えている。各区での一斉清掃など町と契約していない草刈りも多くある。そこで事故発生時の補償についても区が主体の場合、助け合いのまちづくり活動推進サポート保険の活用を基本とし、作業中の事故などの対応を強化している。

## 町営住宅の管理は



空き増える塩田住宅



## 表紙写真を 募集しています



あなたが撮った写真が『議会だより』の表紙になります！

発行月(1、4、7、10月)にふさわしい町民の笑顔やイベント行事などの写真をお送りください。

採用になったお写真は、『議会だより』表紙に掲載するとともに、誌面で紹介させていただきます。また、和気町PRグッズを差し上げます。

\*詳しい応募要項は、和気町議会ホームページをご覧ください。事務局までお問い合わせください。



写真はイメージです。

今月の表紙

## 「同級生トリオで見事優勝!」



一部加工・トリミングして掲載しています。

撮影場所：和気町体育館

応募者：田代 雄一

コメント：第2回あつまれ!東備地区中学校剣道同窓会剣道大会が11月9日和気町体育館で開催され、同級生トリオで試合に出ました。久しぶりだったけど、息ピッタリ!3人の力を合わせて優勝しました。

## 編集後記

松の内も過ぎ、皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。

今回の委員会視察での学びを活かしながら、町政へ提言できるように尽力いたします。

議会と皆様をつなぐ役割を果たしている「和気議会NAVY」が、親しみやすく身近な媒体となるように、広報委員会として今後も精進してまいります。本年もご愛読の程、宜しく願います。

この一年が皆様にとりまして、幸多き年になりますように心からご祈念申し上げます。

(山野 英里)



和気町議会だより 第79号 令和8年1月23日発行

和気町議会広報編集委員会 岡山県和気郡和気町尺所555番地 TEL0869-93-1121(代)  
和気町議会ホームページ <https://www.town.wake.lg.jp/gyoseijoho/wakichogikai/>



和気町議会  
ホームページはこちら!

和気町議会 検索